

帝塚山学院幼稚園

2024年度 学校評価報告書

1. めざす幼稚園像

初代学院長庄野貞一が提唱する「力（意思の力、情の力、知の力、躯幹）の教育」を推進するとともに、教育理念の「人として生きる力を育てる一高い志、豊かな感性、他への思いやり」を実践する。

また、「挨拶」「けじめ」「思いやり」といった伝統として受け継がれる教育目標を継承しながらも、グローバル社会を生きるための基礎を育む保育内容、保育環境を整える。

2. 中期目標

（1）エンロールメント・マネジメントの強化

- ①体験型プロジェクト保育の実施
- ②ICT 機器を利用した教育活動の研究
- ③食育活動の実施
- ④SDG s への取り組み
- ⑤表現力・語彙力の向上
- ⑥安全教育の継続
- ⑦運動能力・体力の向上
- ⑧マナー教育の充実

（2）指導力向上

- ①教員研修・園内研修の実施
- ②安全教育・救命技能の向上
- ③人事考課制度・評価の実施
- ④保育マネジメントの充実

（3）保育環境の充実

- ①保育環境
- ②園庭環境

【保護者アンケート結果と分析】 2025 年 2 月実施アンケート

- ・ 本年度は全体を通じて、昨年度と比較してより高い評価を得ている。とりわけ教育方針や保育内容に関しては、設問「園児の心が動く、多種多様な体験ができるような保育を実践している。」では **97.2%**が「十分に達成している」及び「達成している」と回答している。これまで「体験」を通した保育については高評価であったが、本年度は年中組が「大豆プロジェクト」と題し種から育てた大豆を収穫、食す、加工すると多種多様な体験をしたり、年長組が耕運機で実際に畑を耕すところから始めて 1 人 1 本の大根を育てたりとその体験内容の充実度が高評価につながったと考えられる。また、外国語プログラムについても評価の改善が見られた。年間を通じて同じ講師が担当する学年が多かったことが改善に繋がった。
- ・ 次に、教育環境の項目においても昨年度より高評価であった。特に評価が高かったのは「子どもの成長や課題を定期的に知ることができている」と、「夕食の提供」である。子供の成長や課題は、日々担任教諭と保護者のコミュニケーションが円滑であったこと、毎日配信されるブログやリアルタイムで配信されるインスタグラムを通じて知ることができたことが要因であった。また、本年度より本格的に開始した夕食提供では、両親の就労の有無に問わず利用が可能であったため、多くの家庭の子育てのサポートに繋がったと考えられる。
- ・ 家庭との連携の項目では、本年度は園長による子育てカンファレンスを開催したが、**92.1%**が「日々の子育てを見直すきっかけとなった」と回答しており、非常に高い評価であった。

【学校関係者評価委員会からの意見】

【学校評価に関して】

園の分析は、保護者の声をしっかり反映し、体験型保育や環境の強みを具体的に挙げています。大豆プロジェクトや大根栽培が好評な理由を活動の充実さに結びつけた点は、とても分かりやすく納得感があります。外国語プログラムの改善理由も、講師の継続性と結びつけており、明確です。ブログや夕食提供の分析は保護者の声とつながっており、子育て支援への思いが伝わります。子育てカンファレンスの効果も認められます。公開保育(ESEQ)においては、子ども達への関わり方や保育の実践力の高さを評価された。また、ESEQ の 5 回の STEP を通じて、教員が互いに意見を出し合えるチームをつくることができている。今後も保護者と連携し、さらなる改善を進めてもらえるよう期待します。

【保護者による学校評価に関して】

保護者アンケートでは、保育内容が **97.2%**の高評価を得ており、体験型保育が好評であったことがうかがえます。子どもたちが楽しみながら学ぶ姿は、園の教育方針が反映されている証左です。外国語プログラムも講師の継続で信頼感が上がり、評価が向上していると認めます。教育環境の点については、担任とのスムーズなやりとりや、ブログ・インスタグラムの更新が、子どもの成長を保護者やそれ以外の家族に身近に感じさせることに貢献しており、今後入園を考えている方々にもいい方向に働いていると考えます。夕食提供は多くの家庭の子育てを支えており、また、子育てカンファレンスは **92.1%**が「子育てを見直す機会になった」と高評価を得ており、今後も時代の要請に応えることのできる新しい工夫に期待します。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度(%)	自己評価	課題と改善策
(1) 教育の質の保証 (教育の質の保証) ① 体験型プロジェクト保育の実施	① 体験型プロジェクト保育の実施 ・活動中に就学に向けた準備を意識する。 ◆生活する力 ◆かかわる力 ◆学ぶ力	年中：大豆プロジェクトを実施 年長：探そう 日本のキラキラプロジェクト実施	100%	・大豆食品に興味をもち給食でも大豆を好んで食べるようになった。 ・キラキラプロジェクト米の栽培・和菓子づくりお茶作りを体験	・担任により機器を使用する頻度が違うため積極的な利用を促したい。
② ICT機器を利用した分かりやすい教育活動の研究。	②ICT 機器を利用した子どもの主体性を育む保育	②具体的実践活動の発表	75%	・子どもたちにとって分かりやすい保育を意識することができた。	
③食育活動の実施	③テーマ：「食事と自分との関係」をもとに食育活動を実施	③クッキングの実践	100%	・クッキング、食育活動の中で自分の体が食事により作られることを意識できた。	
④SDG s への取り組み	④テーマ：「様々な仕事を通してSDG s を考える」	④年間を通しての取り組みを検証。	100%	・ダンポストを使ってたい肥作り。食べ残しはもったいないの意識を高められた。 ・節水にも関心が高まる	
⑤表現力・語彙力の向上 ・絵本の扉リニューアル実施	⑤・絵本の扉の活用 ・絵本の読み聞かせ年間「150冊」実施 ・年長、年中音読活動を実施	⑤ ・読み聞かせ実施結果 ・音読の具体的活動結果	100%	・発表の機会を多く設けることで、文章を読むことに自信を持つことができた。	

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度(%)	自己評価	課題と改善策
⑥安全教育の継続	⑥安全教育の継続 ・災害時の単独避難行動教育の充実 ・緊急地震速報受信システム活用 ・避難防災訓練 年間5回実施 ・園児と共に園生活での危険な行動や場所を確認。	【避難訓練】 年2回 5月・11月実施 【防災訓練】 年3回 6月・9月・1月実施 【点検】 1学期・2学期に実施	100%	・防災訓練、安全教育ともに計画通り実施できた。 ・特に粘土を使ったリア安全教育が効果的だった。 リール再生回数：21.6万回	
⑦運動能力・体力の向上	⑦運動能力・体力の向上 ・「縄跳び」への取り組み ・戸外遊び時間の確保と充実 ・年長：ドッジボール サッカー	【目標実施回数】 ・総合遊具の活用 ・縄跳びチャレンジ	100%	・保護者による見守りサポーターにより戸外遊びを充実させることができた。	・保護者のサポーター制度は継続したい。
⑧マナー教育の充実	⑧マナー教育の充実 ・挨拶、お礼が素直に言える ・年長児は敬語を意識する ・お箸検定の実施 ・鉛筆検定の実施(年少) ・はさみ検定の実施(年少)	【お箸を正しく使える】 年少:60% 年中:75% 年長:100% 【鉛筆を正しく持つ】 年少:70% 年中・長:100% 【ハサミを使う】 年少:85% 年中・長:100%		【お箸を正しく使える】 年少:57%(43%)前年 年中:60%(73%) 年長:81%(89%) 【鉛筆を正しく持つ】 年少:70% 年中:90%年長:93% 【ハサミを使う】 年少:100% 年中:92%年長:100%	・お箸の正しい使い方が前年度に比べ達成率が下がっている。家庭にも協力を求めたい。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
(2) 指導力向上 ①教員研修・園内研修の実施	①・外部研修への参加 ・理論と実践を繋ぐ研修会を実施 ・2024年度 ECEQ へ参加		100%	・教員の学びと自信にも繋がった。 参加園から高い評価をいただいた。	
②くぼた脳研の活用	②・くぼたのうけんの研修会に参加し理解を深める ・くぼたのうけん教室見学		0%	・研修への参加、見学をすることができなかった。	
③安全教育・救命技能の向上	③普通救命講習を受講		100%	・計画通り全教職員が講習を受講した。	
④人事考課制度、評価の実施	④・個々の教員の役割や目標を明確に伝える。 ・目標達成のための具体的行動を確認する。 ・自己点検シートの活用	④各教員との面談実施により確認。	100%	各教員と具体的な目標や課題を共有することが出来た。	

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
⑤担任ローテーションの実施	⑤担任ローテーションの実施のための人材育成。 ・子育て支援員の増員検討 (早朝～夕食に対応)		50%	担任ローテーション実現のための教員採用が難しく、計画通りに人材育成していくことが困難な状態。	
⑥保育マネジメントの充実	⑥【園長、副園長、担任間で】 ・目標、目的を明確に定め、共有する。 ・目標、目的を達成するための手段や方法を助言する。 ・組織としての目標に対して、個人の目標や役割を明確にする。		100%	目標管理について、各教員に明確に伝えることができ、意見交換も出来た。	
(3) 保育環境の充実 ①保育室環境 ・老朽化施設の改修	①・年少・年中保育室扉の改修 ・通用門雨天時の対策		100%	できる箇所から順次改修を実施。	
②園庭環境 ・冒険山改修工事	・大型遊具腐食部分の改修		100%	冒険山、大型遊具ともに改修作業終了	
③自園給食の実施 ・食育を更に特化させる	③現在の環境を維持した状態で、自園給食の実施を検討。		0%	環境を維持しながらの実現が難しい。	